第３章　　中学校・高等学校における事例

１　個別の指導計画を作成するに当たって

個別の指導計画は，障害のある生徒の実態に応じ、適切な指導・支援を行うことができるよう、学校における教育課程等をふまえながら、目標、方法（手立て）、評価等の観点を含んだものです。個別の指導計画を利用することで、①前もって指導計画を立てておくため、指導の方向性が明確になる、②具体的な目標を立てることで、評価の視点が明確になる、③目に見える形のものを作成することで、指導の意図が他人に伝えやすくなる等のメリットがあります。

(1)　個別の指導計画作成の手順

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒（肢体不自由、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）、高機能自閉症等）を対象に作成します。

作成に当たっては、特別支援教育コーディネーターの協力や助言を受けながら、学級担任が作成します。

ア　保護者や小学校からの情報（成育歴・相談歴・願い等）を収集する。

イ　行動観察を行い、生徒の実態（強さと弱さ）を把握する。

ウ　必要に応じて心理アセスメントを実施し、結果の分析を行い、特性を理解し、支援の方針を決定する。

保護者から情報を収集する際は、Ｐ３０「プロフィール」を用いると便利です。

(2)　目標の設定について

ア　長期目標の設定について

十分に実態把握を行い、①本人・保護者のニーズに応える内容であるか、②将来の自立と社会参加を見据えた内容であるか、③評価できる具体的な内容であるか等、確認しておく必要があります。

また、生徒の発達段階を、学習面だけでなく、生活・行動面、情緒・社会面、身体面など多角的にとらえ、「今、その生徒にとって一番に身につけなければならないことは何か」という個のニーズに立つことが大切です。

イ　短期目標の設定について

できるだけ弱さの部分には焦点をあてず、生徒の興味関心を活かした、主体的な行動の面から、目標の設定を行っていくとよいでしょう。その際、Ｐ３１の「実態シート」を用いると便利です。

ウ　「実態シート」の記入の仕方について

(ｱ)　主体的な行動を列記する際、長期目標、短期目標の設定の根拠を示すために、優先順位を決め、最も大切にしていきたい主体的な行動を上から順に書き込んでいきます。主体的な行動とは生徒にとって興味関心が強く、主に支援がなくても一人で行うことができる行動を意味しますが、支援があれば一人で行うことができる行動も含めます。

２　個別の指導計画の作成

（1）　プロフィール

ふりがな	○○　○○	性　別	男
生徒氏名	○○　○○	生年月日	平成○年○月○日
手帳の有無	なし		
診断の有無	ある　※なしの場合は「生徒の特性」の欄へ記入		
診断名	高機能自閉症	生徒の特性	
生育歴 既往歴	<出生時>正常分娩、出下時体重３，５９５ｇ 発語：１歳　始歩：１０ヶ月　おすわり：６ヶ月　首のすわり：４ヶ月 <言葉の発達>特に問題はないが、就学前にひらがなに興味を示さなかった。 <情緒・行動の発達>幼稚園時は多動で、長時間、席に座っていられなかった。 <既往症>喘息、服薬中（１歳～現在）、睡眠異常なし、健康状態:良好。		
教育歴	平成○年：○○幼稚園入園 平成○年：○○小学校入学 平成○年：○○中学校入学		
相談歴 診察歴	４歳１０ヶ月：○○こども療育センターで高機能自閉症と診断を受ける。 １３歳～１４歳：児童相談所に定期的に通う。		
諸検査	別紙参照 ＷＩＳＣ－Ⅲ　言語性ＩＱ１１３　動作性ＩＱ８９　全検査ＩＱ１０１【平成○年○月】 （ＶＣ１１５、ＰＯ８９、ＦＤ１０３、ＰＳ８６）		

記入年月日						
記入者 印						
記入年月日						
記入者 印						

(ｲ)　配慮事項に関しては逆に支援がないと、一人で行うことが難しい行動や支援があっても主体的であるといえない行動を意味します。

(ｳ)　特記事項に関しては、上記の記述に書き込めなかった具体的な情報として、指導上役立つと思われる情報を記入します。

(3)　個別の指導計画の記入の仕方について

ア　「本人の願い」「保護者の願い」

本人と保護者の意見が異なる場合には、各々の願いを記載します。

イ　「学校・学級担任の願い」

該当学年を修了した時の児童生徒の目指す姿を記載します。

ウ　「長期目標」

「学校・学級担任の願い」の実現に不可欠な生徒が達成すべき到達目標を記載します。

生活・行動面、情緒・社会面、学習面から生徒の特性を捉え、主体的な行動や長所を伸ばす目標の設定になるように留意します。

肯定的な表現を行い、「～させない」「～しないように」といった否定的な表現は避けます。

エ　「支援方針」

「長期目標」の実現に向けて、各「長期目標」に対する支援の方針を記載します。方針については、アセスメント（観察行動、心理アセスメント他）の結果、客観的な根拠（資料）に基づいて、生徒の特性を適切に把握した上で、望ましい支援の方針を記載します。

オ　「短期目標」

「長期目標」を実現させていくために必要な目標を、スモールステップで考え、各学期（３～６か月）に分けて考え、年間を通して記載します。

「短期目標」の設定にあたっては、学期末に評価できるように、具体的な行動の目標として、記載します。

内容については、「長期目標」と同様に生徒の興味関心を踏まえ、主体的な行動（強さ）に焦点をあて、配慮事項（弱さ）を補う目標の設定に心がけます。

スモールステップで定めた「短期目標」の内容が、一つの領域で積み上げられていき（ボトムアップ）、「長期目標」の達成に向かう設定であっても、「短期目標」の内容が、学期ごとに、領域が変化し、関連していなくても、結果的に、「長期目標」の達成に結びつくものであれば構いません。但し、アプローチの仕方は、多様であっても、支援の方針は、一貫性を失わないように、系統立てて計画する必要があります。

カ　「手立て・支援」

「短期目標」を具体的に達成していくために行う、本人に対する支援や環境に対する配慮、補助教材の使用など、具体的な支援の手立てを記載します。

キ　「評価」

「短期目標」に対し、達成できたかどうか、学期の終わりに担任が評価します。（評価は、校内委員会等で確認します。）「短期目標」が達成できた場合は、目標達成に○を付け、達成に向かってはいるが、到達できなかった場合は、継続に、○を付け、達成にはほど遠く目標の設定自体に問題があったり、支援が不適切であったりした場合は、修正に○を付けます。

目標達成の場合は、何が良かったのか達成に結びついた効果的な支援や配慮を記載します。継続の場合は、達成できた課題とできなかった課題を分析し、支援の改善と、次学期以降の「短期目標」に対し、若干の修正を行います。修正の場合は、達成できなかった原因の分析を行い、次学期以降の「短期目標」に対し、修正を行います。

ク　「本年度の評価」「来年度の方針」

年度末に、「長期目標」に対する総合評価を、「支援方針」の観点から行い評価する。概ね達成できた場合は、継続しますが、達成できなかった場合は、見直しを考えます。

少しでもできていれば、基本的に達成と判断します。達成できなかった場合、その原因を、本人の責任として記載しないように配慮し、あくまでも支援側の責任（支援不足）としてとらえ、原因の分析を行い、改善策を記載します。

（2） 個別の指導計画（実態シート）

○○学校

<table>
<tr><td rowspan="2">（ふりがな）
生　徒　名</td><td rowspan="2">○○○○　　○○
○○　　○○</td><td>性　別</td><td>男</td></tr>
<tr><td>学年組</td><td>○年　○組</td></tr>
<tr><td>主体的な行動</td><td colspan="3">・　好きな本であったら、長時間集中して読書をすることができる。
・　計算が得意で、速く解くことができる。数学的な考え方を必要とする学習に対しては興味を示すことがある。
・　ひらがなよりもカタカナやローマ字、数字を書くことが好きである。
・　乗り物の絵を描くことが好きで、鉄道については、日本中の路線の名前を覚えている。
・　休憩時間、廊下や教室等で、友達に話しかけていくことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">配慮事項と手立て</td><td colspan="2">配慮事項</td><td>手立て</td></tr>
<tr><td colspan="2">・　球技（バスケットボール等）では、先の動きを予測することが難しく、参加することが難しい。

・　喜怒哀楽が激しく、落ち込むと物を投げたり、自分の頭を床に打ち付けたりすることがある。

・　手先の不器用で誤字脱字が多い。止めが流れやすく、書き順が不正確で、字と字のバランスが悪い。

・　あいまいな言葉や一度にたくさんの言葉は頭には入らない。

・　物の管理が難しく、紛失や忘れ物が多い。

・　説明を最後まで聞きことが難しく、すぐに「分からない」と課題を投げ出すことが多い。

・　熱中して作業を始めると、途中で作業を中断して、切りかえることが難しい。

・　各教科とも、内容の理解に時間がかかり、論理的な思考や学習内容の定着が難しい。

・　周りの環境に流される傾向があり、全体の雰囲気が落ち着かない場合、多動になる。</td><td>・　事前に作戦ボードで動き方の確認やルールの説明をする。

・　怒りの状況を示すカードを準備し、カームダウンのための場所を設置する。（解消方法を伝える）

・　ます目が大きいノートを使用させる。書き順については、厳しく指定しないようにする。

・　短く簡単な言葉で指示を行い、説明の際は、モデル等の提示を行う。

・　予備のプリント等を予め用意しておく。

・　注意喚起を行い、話をはじめから聞かせるようにする。また、解法の道筋をモデルで示し、ヒントを与える。

・　活動前には、予め終了を予告する。

・　最低限のポイントの指示し、定期的にフィードバックを行っていく。

・　学習規律の徹底と注意喚起のための教具（気づきカード）を準備する。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="3">・　生活ノートを利用し、学校の様子を適宜保護者に知らせ、連携を図っている。
・　定期的（月一回程度）に、保護者との面談を行っている。
・　剣道部に所属し、顧問との関係は良好である。</td></tr>
</table>

(3)　個別の指導計画の例

○○学校

ふりがな 生 徒 名	○○　○○	性別	男	学年・組	○年○組	学級担任名	○○　○○（数学担当）	作　成　日	平成 ○年 ○月 ○日
本人・保護者の願い	本　人	・　電車の運転手になりたい。　・　○○高等学校へ進学したい。				学校・学級担任の願い	学　校	・　自分の気持ちを言葉で、相手に伝えることができるようになってほしい。	
	保護者	・　友達をつくってほしい。・　○○高等学校へ進学してほしい。					担　任	・　自分の気持ちをコントロールすることができるようになってほしい。	

		生活・行動面（身辺自立・体力）等	情緒・社会面（対人関係・コミュニケーション）等	学習面（認知・課題解決）等
長期目標		○　学級の一員としての自覚を高め、係活動や委員会活動に対し、積極的に取り組むことができるようになる。役に立つ経験をする。	○　自分の気持ちを、暴力や暴言ではなく、適切な言葉を使って、相手に伝えることができるようになる。	○　授業中わからないときに、あきらめず自分から質問することができるようになる。
支援方針		○　視覚的な手がかりとして、給食・掃除等の係活動の当番表や、委員会活動の日程表を学級内に掲示し、活動漏れをなくす。 ○　委員会活動については、本人の希望を尊重し、決定する。 ○　学級の委員として、学級独自の取り組みを行うよう促す。	○　情緒が安定しているときに、ソーシャルスキルトレーニング（ロールプレイング等）を行い、人とのかかわり方について、予め約束をしておく。（約束を守ろうとしていることを、適時評価する。） ○　１日に一度振り返りの時間を設け、セルフモニタリングさせる。	○　学習のポイントが分かれば、内容を理解し、意欲的に作業に取り組むことができるので、視覚的な補助教材（ヒントカードや解法のためのモデル等）を準備する。 ○　学習の進捗状況にあった家庭学習の課題を用意する。
前期	短期目標	○　係活動や委員会活動を忘れることなく、最後まで責任をもって活動に取り組むことができるようになる。	○　かっとなったときに、自分の気持ちを数字や言葉に置き換えて、表現することができるようになる。	○ 授業中わからないときに、隣（班内）の生徒にどうしたらいいか、質問することができるようになる。
	手立て・支援	○　給食・掃除等の係活動の当番表や、委員会活動の日程表を学級内に掲示し、活動漏れがないように努める一方、活動内容については、チェック表を用意し、取り組みの充実を図る。 ○　本人が、どのように作業すればよいかがわからないとときは、手順カード等を用意し、初めにリハーサル等を行うようにする。	○　暴言や暴力を発した際に、自分の非を認めることが難しく、叱ると逆に反発して効果がないので、毅然とした態度で接しながらも、肯定的に「～した方がいいと思うよ」と言葉がけをしていく。 ○　セルフモニタリングする内容については、もう少し頑張ればできそうな課題を複数提示し、その中の一つを、本人に選ばせる。	○　忘れ物をしたときは、貸し出し教科書等を準備する。 ○　座席を前方に配置し、注意喚起を行い、集中させる。 ○　導入の際には、鉄道の話に関連させ興味を持たせる。 ○　質問がしやすいように、協働学習の場面を設定する。 ○　解法のモデルを示し、自力で解答する経験をさせる。
	評　価	目標達成・継続・目標修正 ○　係活動や委員会活動においては、案内カードによって事前に予告していたので、忘れることなく参加することができた。 ○　本人が、読書が好きということで図書委員に立候補した。作業については、担当教員による事前指導により、支障なく行えた。	目標達成・継続・目標修正 ○　セルフモニタリングを行う際、当初、用紙の記入に抵抗があり、本人が記入できなかったので、教師が記入を行い評価していった。 ○　暴力については、コントロールされてきたが、暴言については、相手の反応によって、エスカレートしていく場面が多々あった。	目標達成・継続・目標修正 ○　貸し出し教科書等を準備することで、授業の不参加がなくなり、注意喚起をすることで、作業の遅れが解消した。 ○　協働学習の場面を設けることで、班内で相談したり、意見を出し合ったりする場面が見受けられるようになった。
後期	短期目標	○　生徒会から指示を受けた内容について、リーダーシップを発揮して、学級独自の取り組みを考案することができるようになる。	○　かっとなったときに、自分の気持ちを文字にして、当事者以外の第３者（学級担任等）に、伝えることができるようになる。	○ 授業中わからないときに、教科担任にどうしたらいいか、挙手して質問することができるようになる。
	手立て・支援	○　生徒会からの伝達事項を、学級担任に伝える報告会を開催する。 ○　報告会の中で、生徒会活動を発展させるために、学級でどのような取り組みを行えばよいか、本人に計画書を作成させる。 ○　学級の取り組みを具現化させる計画書の発表原稿を作成させ、学級会で、自信をもって発表させる。（学級に協力をよびかける。）	○　本人が、訴えてきたときは、まずは評価し、本人の思いを受け止める（受容し共感する）。本人と当事者の間に入り、つなげる。 ○　友達との間でトラブルが起きた場合、クールダウンさせた後、筆談により背景を図示して説明し、本人の気持ちを言語化していきながら、適切な対応の仕方（表現）を提案し、今後の対応については、本人に自己決定させる。	○　授業のはじめに学習内容（課題）を明確に示していくことで、学習に対する見通しを持たせる。 ○　全員発言運動等、学級での取り組みをしくみ、発言しやすい雰囲気をつくる。 ○　学習の進捗状況にあった家庭学習の課題に取り組ませることで、学習に対する意欲を高め、達成感を味わわせる。
	評　価	目標達成・継続・目標修正 ○　図書委員として、読書月間中の「図書貸し出し学年１位」を目指して、「紹介カードの作成」や「一位記念お楽しみ会の企画」等学級独自の取り組みを行い、見事１位に輝き、自信がついた。	目標達成・継続・目標修正 ○　どんな時に自分がイライラしてしまうのかが分かるようになり（自己認知力が高まり）、かっとなったときに、学級担任に相談することができるようになってきた。	目標達成・継続・目標修正 ○　家庭学習の定着により、自己肯定感の高まりとともに、意欲的に発言する姿が徐々に見受けられるようになり、全体の場において、自分の意見を出せるようになりつつある。
まとめ	本年度の評価 来年度の方針	○　本年度は、自己コントロール力を高めるために、本人自身が自分のことを知る取組みを中心に行ってきた。自分ができることとできないことが少しずつわかり始め、困ったときやかっとなったときに友達や担任に対し、依存できるようになってきた。 ○　入学当初、自己肯定感が非常に低く孤立していたが、大好きな読書を生かし、図書委員になったことをきっかけに、その楽しさを学級に伝え、図書月間には、貸し出し数学年１位となり、自信につながった。また、周りの生徒からの評価も高まり、一目おかれる存在となったことで、学級に居場所ができた。 ○　興味関心が高い教科（数学）を中心に取り組みを行っていった結果、数学では意欲的に発言する場面も増え、宿題（提出物）も忘れることが少なくなった。 ○　数学の時間は、参加状況に改善が見うけられたが、その他の教科では、依然離席や無関心等の課題が残った。数学での本人の頑張りをその他の教科に波及できるように、教科担任との一層の連携を図りながら、できる限り他の教科でも数学の時間と同様に、「ヒントカード」や「まとめプリント（宿題）」の作成等、自ら学習が行えるよう環境づくりを整えていきたい。		

＜資料３＞

個別の指導計画

学校

ふりがな 生 徒 名		性別		学年・組	年　組	学級担任名		作　成　日	平成　　年　　月　　日
本人・保護者の願い	本　人					学校・学級担任の願い		学　校	
	保護者							担　任	

長期目標		生活面・身辺自立・体力　等	社会面・対人関係・コミュニケーション　等	学習面・認知面・課題解決　等
支援方針				
前期	短期目標			
	手立て・支援			
	評　価	目標達成・継続・目標修正	目標達成・継続・目標修正	目標達成・継続・目標修正
後期	短期目標			
	手立て・支援			
	評　価	目標達成・継続・目標修正	目標達成・継続・目標修正	目標達成・継続・目標修正
まとめ	本年度の評価 来年度の方針			

＜資料２＞

個別の指導計画
実態シート

学校

（ふりがな） 生　徒　名		性　別	
		学年組	年　　組

主体的な行動		
配慮事項と手立て	配慮事項	手立て
特記事項		

＜資料１＞

個別の指導計画
プロフィール

ふりがな		性　別	
生徒氏名		生年月日	平成　　年　　月　　日
手帳の有無			
診断の有無			
診断名		生徒の特性	
生育歴 既往歴			
教育歴	平成　　年： 平成　　年： 平成　　年：		
相談歴 診察歴			
諸検査			

記入年月日						
記入者 印						
記入年月日						
記入者 印						